154 長崎郵趣
2019.2.17

瑞鳥・瑞獣の切手

宮崎治男

【テーマティク日本切手】

想像・伝説のめでたい動物　龍（竜）の切手

「龍」は、平素は深い水底にひそみ、雲を起し、雨を呼ぶ、そして時が至れば雷鳴をとどろかせて天に昇るという。それは、力強さ、荒々しさ、超自然的な力の象徴であり、王者（天子）や偉人など偉大で優れた存在にも例えられる。古来、龍は、麒麟、鳳凰、亀とともに神秘的な霊獣の一つとして尊ばれる。時至れば天に昇る－この地上と超越的な世界を結ぶことが竜の最大の特性。竜の原像は様々あり、水との結びつきでヘビ、鼻の形からブタ、4足からワニ、天地を結ぶことから竜巻が原形の説も。インドからの仏教伝来に伴い、仏法守護の八部衆の一つの竜（竜王）が古来の竜と重なり、四海竜王の観念が定着。龍につながる文様や竜形の玉器は、新石器文化の中に見つかる。

「竜切手」の竜

日本最初の「竜文切手」

（1891年［明治4］4月20日発行）

竜文切手（東京国際切手展 1981）

竜銭切手（郵便創始75年 1946）

竜48文切手（日本国際切手展 [illegible]）

竜文切手（民営会社発足 2007）

竜文切手と前島密（切手の歩み 1994）

瑞鳥・瑞獣の切手

宮﨑　治男

新年にあたり，瑞鳥（鳳凰，鶴）・瑞獣（麒麟，龍，亀）の切手を紹介する。

鳳凰，麒麟，龍は，日本，中国では古代から尊ばれている幻の霊鳥・霊獣。

「鳳凰・麒麟」は，聖人（王）とともに世に現れるといわれる。雄を鳳または麒，雌を凰または麟という。「鳳凰」は，天子をたたえる象徴といわれる（天子の乗り物を鳳簾，鳳輿という）。最初の切手は「大正大礼（１９１５年発行」」，以後，基本的には皇室関係切手が中心である。

「麒麟」は，体は鹿に似て一本の角があり，足は馬、尻尾は牛に似るという。他を傷つけず、虫や草を踏みつけない仁獣という。最初の切手は「立太子礼（１９５２年発行」」，描かれた切手は非常に少ない。

「龍」は，「深い淵に潜み，雲を起こし，雨を呼び，時至れば雷鳴をとどろかせて天にのぼる」という。この超自然の力の象徴であることから最も親しまれている。描かれた切手も日本の最初の竜文切手から登場し，発行件数も瑞鳥・獣切手の中では最も多い。

「鶴の切手」は日本最初の記念切手「明治銀婚（１８９４年発行）」をはじめとして，めでたい鳥として動物切手の中では発行が多い。「亀の切手」は，めでたい動物として鶴と双璧をなすが，切手の発行は１９７５年の昔ばなし・浦島太郎が最初で，何故か極めて少ない。

【テーマティク日本切手】

想像・伝説のめでたい鳥 鳳凰の切手

「鳳凰」は，古代中国では聖人とともに現れるといわれ，麟を雄，凰を雌という。仲むつまじく，梧桐（アオギリ）の木に住み，醴泉（あまい泉）を飲み，竹の実を食い，五色の羽をもち，鈴音で鳴く，鳥の王として尊ばれた幻の霊鳥。殷墟から出た甲骨文に鳳神として鳳の字が使われ，天帝（造化の神）の使者だともされている。古代中国の皇帝・聖人が天下を安定させると音楽にのれ舞踊とともに鳳凰がやってきたという（『書経』）。鳳凰を描いた最初の切手は，大正大礼記念切手（1915年［大正4］発行，★印）

桐竹文様と鳳凰文様（天皇陛下御在位10年 1999）

★高御座（大正大礼 1915）

鳳　凰（昭和大礼 1928）

鳳　凰（明仁皇太子ご婚儀 1953）

鳳　凰（大正銀婚 1925）

高御座浜床鳳凰（平成一天皇ご即位 1990）

【テーマティク日本切手】

聖人とともに出現 鳳凰の切手

中国の説文解字（2千年前の字典）では，鳳凰の姿を頭の前方はオスの麒麟，後方は鹿，頸はヘビ，尾は魚，龍のような鱗があり，背中は亀甲と同じでアゴはツバメ，くちばしはニワトリに似ているといっている。日本の鳳凰文様もとかした状態は，古墳時代に朝鮮から伝来しており（伊勢物語説話集『百鳥の歌』），日本書紀（720年ごろ完成）の中に鳳凰についての記載がある。天子を象化するめでたい象徴とされ，鳳凰を模様にを飾った天子の乗り物を鳳輦，鳳輿という。

天皇旗と鳳凰・菊花模様

鳳凰と京都御所，宮殿の欄飾りと菊花紋章（昭和天皇即位60年 1986）

明仁皇太子・皇太子妃と鳳凰文様（明仁皇太子ご婚儀 1959）

京都・時代祭の鳳凰（ふるさと京都 2003），高御座浜床鳳凰（平成一天皇即位 2009），琉球紅型・鳳凰模様（伝統工芸 1985）

小堀鞘作画「東京御着輦」（明治百年 1968）

儀装馬車（昭和天皇ご在位60年 1976）

【テーマティク日本切手】

雄が鳳、雌が凰という 鳳凰（ほうおう）の切手

宇治平等院鳳凰堂の棟飾り（普通郵便切手 1972, 1976）

宇治平等院鳳凰堂（普通郵便切手 1959）

東京・三社祭の神輿（ふるさと 2000）

尾長鳥

檜扇の中に尾長鳥（明仁皇太子ご成婚 1959、平成一天皇皇后ご結婚満五十年 2009明仁皇太子ご成婚 1959）

※ ここに描かれている「尾長鳥」は、想像上の瑞鳥として描かれたものと思われる。なお、「尾長（オナガ）」（カラス科）、尾長鳥（鶲）」（キジ科）などは、現在、生息する。

【テーマティク日本切手】

雄は鄂・雌は麟という 麒麟（きりん）の切手

「麒麟」は、体は鹿に似て頭に１本の角があり 蹄には分かれ、足は馬、尻尾は牛の形をして、仁徳のある王や聖人が世に出る時しか人の目に触れないという瑞獣。雄を麒、雌を麟という。麒の頭の角の先は肉がありあり、他を傷つけないところから仁獣といわれる。鳴き声は音楽の音階に合っており、生きている草や虫を踏まないという。麒麟を描く切手は少なく、最初の切手は「明仁立太子礼（1952年発行）。

★ 皇太子誕、麒麟と梅花、シートの背景は鳳凰と桐葉（明仁立太子礼 1952）

東福寺林泉杉戸絵「麒麟」（第2次修復完了）、高御座絵作動幕（平成一天皇ご即位20年）、江戸城本丸等障壁画絵様（江戸開府400年）

【テーマティク日本切手】

姿は九つの動物に似る 龍（竜）の切手

中国の古書・『本草綱目』には、「竜に九似あり」という。頭は駱駝に似る、角は鹿に、目は兎に、耳は牛に、項は蛇に、腹は蜃（ハマグリ）に似た想像上の動物。これが竜を描く際の原型になった。鱗は鯉に、爪は鷹に、掌は虎にそれぞれ似るという（同じ中国の書物・本草綱目（1956）では、頭は蛇に、目は兎に似るとされているが、あごの下に明珠があり、顔には１枚だけ逆にはえた大鱗（逆鱗）がある。これは竜の最も大切なところで、触れられると怒り触れたものを殺すという（逆鱗に触れる の語源）。

絵画・工芸の竜

高松塚壁画の青龍（高松塚古墳保存事業 1973）

橋本雅邦画「竜虎図」（郵便切手事業百年 1971）　橋本雅邦画「竜虎図」（切手趣味週間 2000）

東照宮陽明門（普通切手 1968）　唐三彩竜耳瓶（日中国交正常化20年 1992）　沖縄・首里城正殿の竜（ふるさと 1996）

【テーマティク日本切手】

鱗のある生きものの長 龍（竜）の切手

ここにも龍

竜とハローキティ（ふるさと 2010）

「龍」は、「説文解字」（最古の漢字辞書）に、「象形、鱗ある生きものの長。暗く・明るくしたり、小さく・大きくなったり、短く・長くなったりできる。春分の日に天に昇り、秋分の日に淵に潜る。肉にしたがい飛ぶ形で、童を省略したのが龍の音である。」とある。鱗蟲之長、能幽能明、能細能巨、能短能長、春分而登天、秋分而潛淵、从肉童之形、童省声也（白川静著「説文新義」）

（干支文字切手 2011）

【テーマティク日本切手】

蛇踊りか？、龍踊りか？　龍（竜）の切手

長崎市諏訪神社の年中行事「龍踊り」（中国名・龍灯）は、1700年代、長崎港入域船で中国人が演じるのを見物した人びとが習い・始めたのが最初という。その形状は大蛇に似て、頭に耳と角、長いひげが生えもつ、体には9子秘の鱗と4本の脚、脚には4本の爪いが生えあり、足元からは4脚がとび、尾には長い7本の脚がある。長崎人は、大蛇のイメージをもっていたのか「蛇踊り（じゃおどり）」と称した。近年になり漢字は「龍踊り」に変えたが、呼び名は「じゃおどり」のままである。国の民俗無形文化財指定。

（上）長崎くんち・龍踊り（ふるさと 1994）
（下）ご当地フォルムカード・長崎くんち（1910）

【トピカル日本切手】

島の中では古い型　ツル（鶴）の切手

ツルの寿命は約８０年。長寿の鳥の一つでは(ある)が、ワシ、コンドル、オウムなどが主な長寿である。ツル（ツル科）は、ツル属、アネハヅル属、カンムリヅル属の3属、17種（亜種を入れると24種）。丹、頂が赤く、口ばし・目や体表の皮。羽長は33cm で、うち11cm が羽根風切羽、尾羽風切羽が部分・覆い（隠れ羽）となり、翼をたたんだとき尾羽風切羽より長い（このため・ダンチョウなど尾部色の長のように見える）。羽根は12枚。日本には渡鳥として「ホオアカツル」がやっとも多く、マナヅルがこれに次ぐ、九州に来ソデグロツルがタ・なかなか見つけ難い。ナベヅルは少なかった。現在は渡鳥は島・島々と一部の地域に飛来するのみ。北海道・釧路のタンチョウは留鳥。

飛　期

タンチョウ（皇太子殿下誕生 1953）

川井画「タンチョウ」（ふるさと切手 1990）

タンチョウと雪原（ふるさと切手 1999）

加山又造画「舞 翔」（インターネット郵便局 2001）

横山大観画「雪晴不二」（国際観光年 1967）

ダンチョウ（第15回国際航空運送協会総会 1959）

タンチョウ（普通切手 1963）

タンチョウ（普通切手 1968）

富士とマーク（国際ロータリー東京大会 1978）

【テーマティク日本切手】

端麗な姿から長寿でめでたい鳥に　ツル（鶴）の切手

古代中国ではツルは仙人に侍る鳥といわれ、さらに、長寿を保つ吉鳥とみなす様になった（漢帝子に「鶴千歳」のことば）。この考えが日本に入り、当時、優美で声が よく通る鳥として知られているにすぎなかったツルが、長寿で吉兆の鳥となった。切手題材となったのも早く、日本最初の記念切手「明治銀婚（1894年[明治27]発行）に初登場。

最初の記念切手と１００年後発行の切手

「菊の紋章を囲む鶴亀の図」（明治銀婚 [1]）[中元記切手]と「明治銀婚切手と寄便取扱の図」（寄便切手の歩み [1]）[左右の切手]

ツル図録

タンチョウヅル（自然保護 1975）、

ナベヅル（水辺の鳥 1992）、

タンチョウヅル（20世紀 1999）

タンチョウヅル（ラムサール条約締結国会議 1993）

マナヅル（水辺の鳥 1993）

【トピカル日本切手】

古名は多豆(たづ)・丹頂(あかがしら)　ツル（鶴）の切手

吉　祥

松竹梅模様（大正葉書 1925）

鶴にオモダカ文様（慶事切手 1999）

折り鶴に松竹梅文様（慶事切手 1994）

折り鶴に松竹梅文様（慶事切手 1983、82、89、89）

折り鶴に亀甲模様の中に松竹梅（慶事切手 1982、82、94）

岡山・後楽園（名園 1966）

岡山・後楽園－梅林・曲水（ふるさと 2000）

フィラテリストとマンホラー/H30. 11. 7

伊東　弘章

11月初旬の文化の日，北九州市に於いて「マンホールサミットin北九州」が開催される。この日は仕事も休み，家内と孫を連れて北九州へ。日の出前am6:00 愛車で出発。長崎道・小城を過ぎた辺りで朝日が佐賀平野を明るくしている。その朝日を背に数十機のバルーンが浮遊始めているのが目をかすめた。そうか，10月31日～11月4日は「2018佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」が開催中だ。 記念小型印も使用されているが，押印郵頼もすっかり忘れてしまっていた。

サミットのイベント開始時刻am9:00少々前，予定していた小倉城の勝山公園地下駐車場へ到着。サミット会場のリバーウォーク北九州，北九州芸術劇場へは駐車場から歩いて５分もかからずの至近距離。イベントも始まったばかりと言うのに会場周辺は，老いも若きものマンホラーたちで賑わっている。蓋女たちも周辺の路上でマンホール蓋の撮影に余念がない。

郵趣界ではフィラテリストの「全国郵趣大会」が1983年より毎年開催されている。そこで初回から参加者数を遡って調べて見ると，最高の参加者数を記録したのが，2001年の『日本国際切

手展2001』開催時の東京ビックサイト大会で486名，これが最高の参加者数。本年9月に開催された第37回島原大会（77名）までの参加者総数は6872名で平均参加者は186名である。

昨年開催の「JAPEX2017」は3日間の期間で4,400名という。

ちなみに一昨年のマンホールサミットin埼玉で3,000名，昨年が倉敷大会で3,700名，そして今回の北九州大会は5,000名の参加者を記録したと閉会時に知る。いずれも一日のみ開催での参加者数である。次回開催は今のところ未定であるが参加者は更に上回るであろう。

午後からのイベントトークのメーン会場，北九州芸術劇場（中劇場）の収容席700人分は満席。それに加え立ち見者も大勢だ。この会場内の参加者のうち2/3が九州圏外からという。マンホールの魅力に嵌ってしまったマンホラー達の多さに家内ともども驚いた。

コレクションアイテムの一つ『マンホールカード』については，切手等とは違いお金を出せば郵便局，切手商などで買えるというアイテムでなく，カードを導入しているその自治体（配布指定場所）へ出向き一人一枚が無料で入手出来る・・・という入手難，稀少性？の要因も魅力としてマンホラーに支持され人気を得ているのかも。またこの要因を利用してオークション出品目的に集めているマンホラーもいるようだが・・・。マンホールサミットでは，参加記念品としてプレミアム的なマンホールカードが入手できるのも嬉しい。今回はトーク会場で北九州市４種のプレミアムカード（英語版・日本語版）が，またイベント会場では福岡県の既配布カード10種が配布される。それに当会場で巡り会ったマンホラー氏との交換で8種が入手出来て，大いに収穫あった。・・ということもあり多くの参加者が集まる。切手展等では記念小型印などが準備されるが，これらを押印するにしても有料で，最低でも62円のお金を要することになる。

会場でカードを交換した人と雑談したが，以前はやはり切手収集していたが乱発に加え，シート単位の購入とかで郵趣に魅力がなくなり，マンホラーに転じたそうだ。またカード入手に際し，ご当地を訪ね回ることも魅力のひとつである・・などと，すっかり意気投合して話ができた方であった。

トークショーでは，静岡の故さくらももこ氏の「まるこちゃん」蓋の話題もありトーク途中には「まるこちゃん」MH缶バッジ（2種）が参加者全員へプレゼントで配られた。参加していた子供たちはカードよりもこの缶バッジに大喜び。家内までもが，これからMH缶バッジのマンホラーになろう・・・と。　マンホールに憑りつかれたマンホラーたちの熱気が体感できた「マンホールサミット」だった。

翌日，英語版カードが15,000円でもうオークションに登場していた。